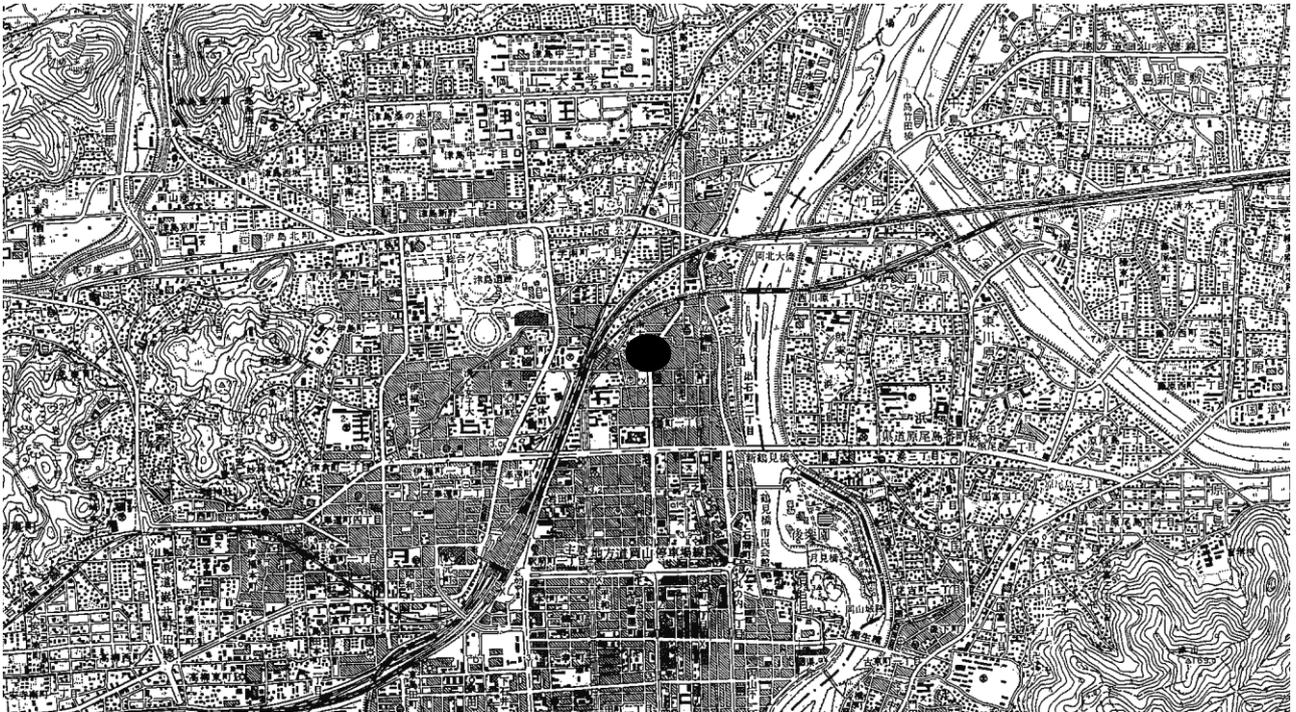


南方（釜田）遺跡

草原孝典

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

南方釜田遺跡は、岡山市北区南方に所在する弥生時代中期の集落遺跡である。ビル建設に伴って発掘調査された。弥生時代中期の集落面の後は水田となっており、近世まで続く水田層が形成されている。ただし、5世紀初頭頃には溝が流れており、埋土からは多くの木製品とともに木製の琴や農具が出土した。

弥生時代中期前半から土坑が認められるが、集中するのは中期中頃である。住居はなく、土坑と土坑墓、木棺墓がまとまっている。とくに木棺墓は、軸方向を合わせて並んでいるものもあり、残存してはいなかったが墳丘が存在していた可能性を示している。土坑には、多くの完形に近い土器が出土するものがあり、墓前祭祀を行った可能性も推測される。吉備では中期後葉になると、丘陵上に整然と並ぶ集団墓が出現するが、南方釜田遺跡は、その先駆けとなる墓地群の可能性が高い。それは南方遺跡の先進性も反映しているのではなかろうか。

【文献】

根木修1992年「水稻農耕の展開」『吉備の考古学的研究』（上）(株)山陽新聞社

【交通】

JR山陽本線「岡山駅下車」徒歩30分

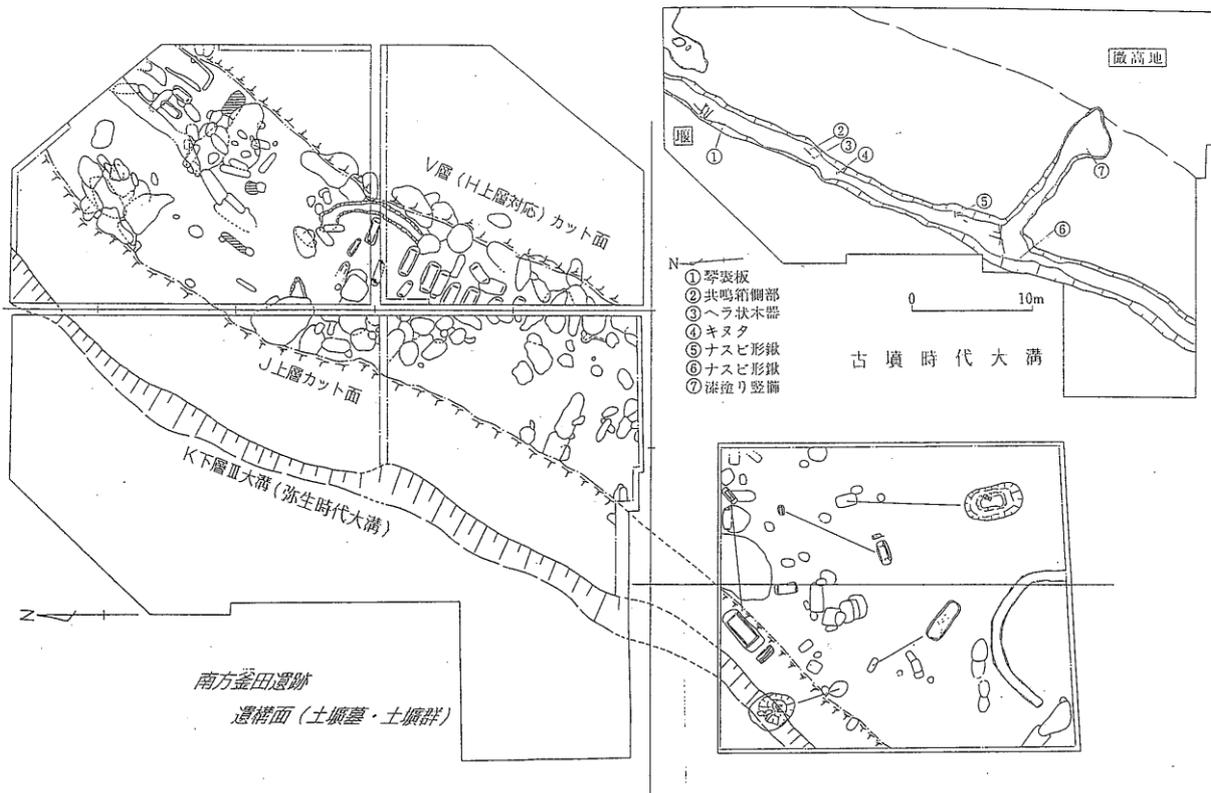


図1 遺構配置図

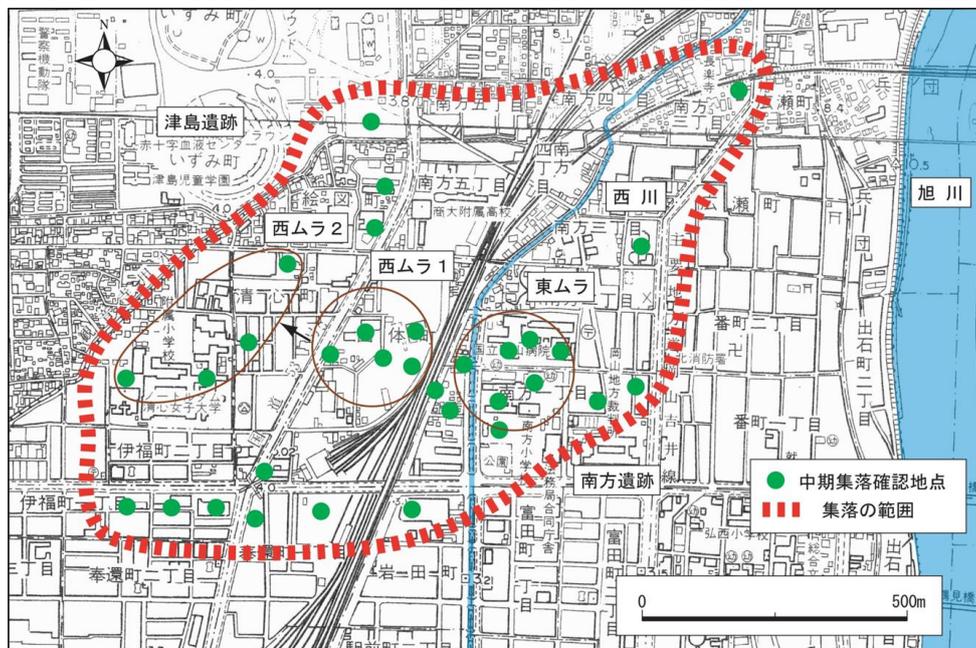


図2 南方遺跡の範囲